

まごころだより

2017年8月号

最近、在宅医療の生みの親とも言われる京都西陣の医者早川一光さん（93歳）の「こんなはずじゃなかった」という文章を読む機会がありました。早川医師は「わらじ医者」の愛称で呼ばれ、「暁の上の大往生」「在宅医療は天国」と在宅での看取りを進めてきました。そんな中、今から3年ほど前に医師自身が癌にかかっていることが分かり、自らが作り上げてきた在宅医療制度のもとでの生活が始まります。ところが、実際生活してみて早川医師はこれが本当に天国なのか、ひょっとして地獄ではないか「こんなはずじゃなかった」と思うようになったというのです。

今の在宅医療では、入浴は○曜と△曜の◎時から、看護師の訪問は○曜の◎時から、医師の訪問は○月○日の◎時からとあらかじめスケジュールが決められています。しかし、早川医師に言わせれば「風呂は入りたいと思ったときに

入るもの」なのです。考えてみれば、風呂は清潔目的だけではなく、くつろぎの場所でもあるのです。それが生活というものです。また医者や看護師は、「来て欲しいなあ」と思ったときに来てもらいたいものなのです。ところが、決められた時間にしか来てもらえない。これが今の在宅医療です。「自由に風呂に入りたい」「医者や看護師は来て欲しいとき来てもらいたい」こんなことを思うのは「自分のわがままなのか」とも、「自分は今まで一体何をしてきたのか」とも早川医師は思うのです。更に、死を目の前にした辛さを感じます。痛みが強いと「病院の方がいい治療を受けられるのではないか」と思う。最期の時を思うと夜が怖く眠れない。早川医師は携帯電話を手放せなくなったと言います。電話の向こうからの



「大丈夫」の一言がどんな睡眠誘導剤よりも効くと言うのです。「自分はこんなに弱い人間であったのか」と早川医師は思うのです。彼はこのように、自分が作り上げてきた在宅医療の限界を感じるのです。





早川先生の在宅医療に対する不満、死に対する恐怖は早川先生の言葉だからこそ意味のあるものだと思うのです。そして早川先生の「こんなはずじゃなかった」という思いは、在宅への道を次の者に託す言葉なのです。高い理念・理想を掲げているからこそ、「こんなはずじゃ・・・」という思いも強いのだと思います。医学は日進月歩を遂げています。治せる病気も増えてきました。お金さえ出せば高度な医療が受けられ、臓器移植の道も開かれています。しかし、どんなに高度な治療を受けても人はいずれ死んでいきます。最終的(終末期)には、痛みを和らげ楽にする事はできても、救えないの

です。そして終末期において、「痛みの緩和」というのは「治す」という本来の医療からは離れたものであるかもしれないけれど、大変重要な要素であると思っています。

現在、健康志向は著しいものがあります。インターネットの影響もあり、血圧や血液検査の数値、病気に詳しく、サプリメントと呼ばれる飲み物や食べ物に熟知している人も多くいます。そういうものに一生懸命になることが、「いのち」を守り、考えることだと思っているようです。しかし、「いのち」は、医療によっても救えません。まして数値やサプリによって救えるものではありません。「いのち」を軽いところでとらえ、数值的、技術的にどうにかできると考えているのが現代だと思います。

2019年に県立大看護学部が新設されるというので、先日そのカリキュラムが新聞に載っていました。「看護と工学」という連携科目を設けるのが特徴とのこと。「高度化する医療への対応」「情報通信技術の導入」などの言葉が並んでいました。私は、人の生死にかかわる仕事として一番大切なことは、「いのちの尊厳を考える」ことではないかと思っていますが、私の思いとはまったく違った方向に進んでいくようです。科学技術はどんどん進歩して3年も経つと学んだことは役にたたなくなってしまう。そんなものに時間を費やすよりも、もっと大事なことを学ぶ必要があるのではないかと思っています。

自宅での生活を望みながら多くの人がそれをかなえられない現実があります。

家族と共に最期を迎えたいと思いつつそれをかなえられないのが現実です。

「在宅」を守るために何をしなければならないのか。

私も「こんなはずじゃなかった」という早川医師の言葉を受け継ぎ悩み続けたいと思います。



8月の行事予定

- | | |
|--------|----------------|
| 2日(水) | 熊本さんのハーモニカ演奏 |
| 9日(水) | 小物づくり |
| 18日(金) | 林夫妻による歌謡ショー |
| 22日(火) | 前畑さんのピアノ演奏 |
| 23日(水) | 食事会 |
| 26日(土) | 白玉づくり(納涼祭用) |
| 29日(火) | あんばやしづくり(納涼祭用) |
| 30日(水) | 納涼祭 |